2026年度

第1回肝疾患診療連携拠点病院研修会　開催報告

日時：2026年10月24日（土）14:00~16:00
開催場所：広島大学病院　霞キャンパス　広仁会館　大会議室
参加者：33名（現地参加）　156名（オンデマンド配信）



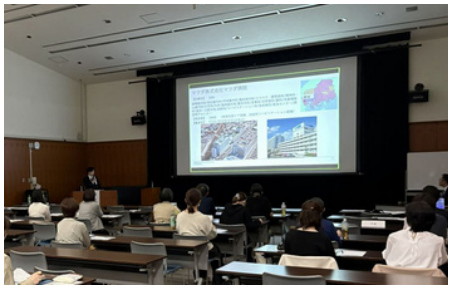
司会　　柘植　雅貴　医師（広島大学病院　肝疾患センター　教授）

第1部
「当院における肝疾患コーディネーターの活動報告」
講師：髙橋 恭平（マツダ株式会社マツダ病院　薬剤部　薬剤師）
「肝炎医療コーディネーターの役割と活動～あなたの経験と強みを活かして患者さんのためにできること～」
講師：矢田ともみ（ロコメディカル総合研究所　副所長）

第2部
グループワーク
司会：増田　幸子（広島大学病院　看護部）

講演会

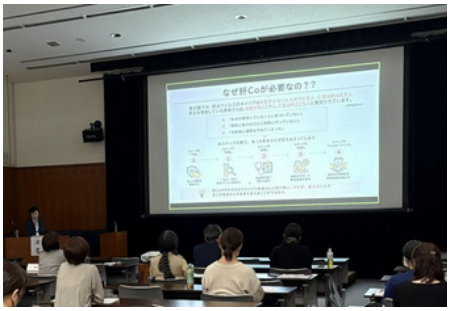
「当院における肝疾患コーディネーターの活動報告」
講師：髙橋 恭平（マツダ株式会社マツダ病院　薬剤部　薬剤師）



肝炎医療コーディネーター活動として、陰性結果説明の徹底や地域啓発、B型肝炎再活性化予防に関する取り組みについてご発表いただきました。
陰性結果説明では、電子カルテに統一文書を整備し、医師・外来看護師・病棟看護師が段階的に説明する体制を構築後、実施率が大きく向上したと示されました。また公開医療講座や肝臓週間では、多職種による講義や脂肪肝チェックを実施し、参加者の健康意識向上につながったことや、再活性化予防では、免疫抑制薬使用患者を対象に薬剤師がガイドラインに基づき検査の抜けを確認し、検査実施率が改善したと報告されました。継続可能な運用体制の構築と、組織全体で取り組むことの重要性が示されました。



「肝炎医療コーディネーターの役割と活動～あなたの経験と強みを活かして患者さんのためにできること～」
講師：矢田ともみ（ロコメディカル総合研究所　副所長）



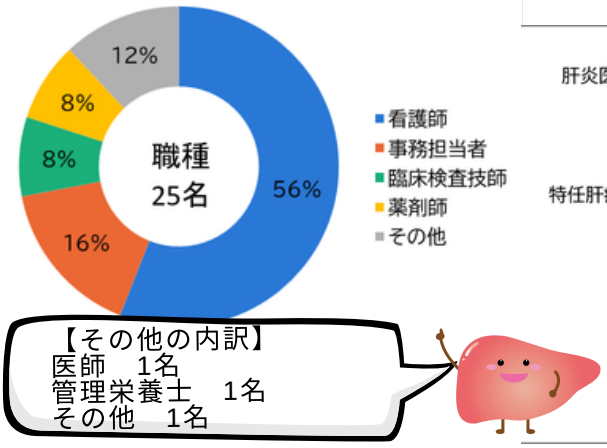
肝炎医療コーディネーターの役割として、予防からフォローアップまでの各段階で患者さんの不安に寄り添い、必要な情報を伝えて次の一歩を支える活動について動画を活用しながらわかりやすく解説していただきました。特別な活動ではなく、日常業務にコーディネーターの視点を加えることが重要とされ、術前検査後の結果確認や専門医へのつなぎ、職種の強みを生かした連携の具体例をご紹介いただきました。また、差別や偏見に配慮した支援として、患者さんが安心して相談できる環境づくりや適切な情報共有の重要性についても紹介されました。そして、全国の事例を通じ、声かけや相談窓口の案内など小さな働きかけが患者支援につながること、無理なく続けられる活動と仲間づくりの大切さを強調されました。

グループワーク



グループワークでは、事例をもとに、患者が抱える不安や受診・治療における肝炎医療コーディネーターの関わりなど、多職種それぞれの立場から活発な意見交換が行われました。患者さんの思いや生活背景に寄り添うとともに、すべてを一人で対応するのではなく、必要に応じて適切な職種や相談窓口へ「つなぐ」ことの重要性が共有されました。参加者が、それぞれの職種の強みや役割を再認識し、肝炎医療コーディネーターとして具体的な活動について考える有意義な機会となりました。
また、進行や発表は特任肝疾患コーディネーターが担当し、参加者が議論に集中できる環境づくりにご協力いただきました。その結果、多職種ならではの視点や経験が共有され、学びの多いグループワークとなりました。

アンケート集計結果(回答者数：25名）



【その他の内訳】
医師　1名
管理栄養士　1名
その他　1名

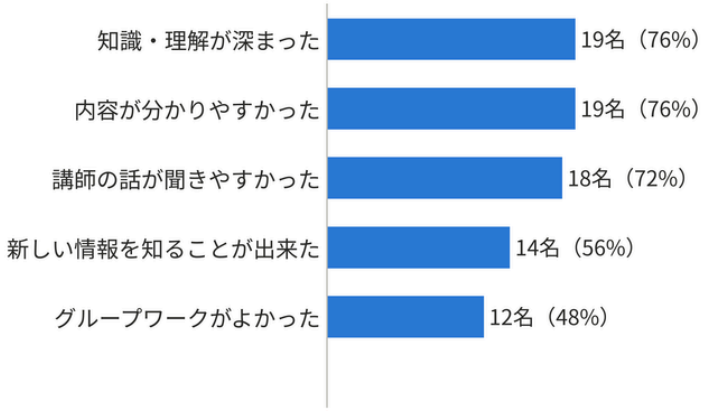
参加の動機　＊n=24（複数回答）
（25名中、申込時アンケートで回答のあったもの）

研修の評価（事後アンケート回答者 n=25）

満足度 25/25名	100%
理解が深まった 25/25名	100%
参考になった 25/25名	100%
今後も参加したい 24/25名	96%

※理解・参考：「とても」「まあまあ」の合計

満足した理由（複数回答）

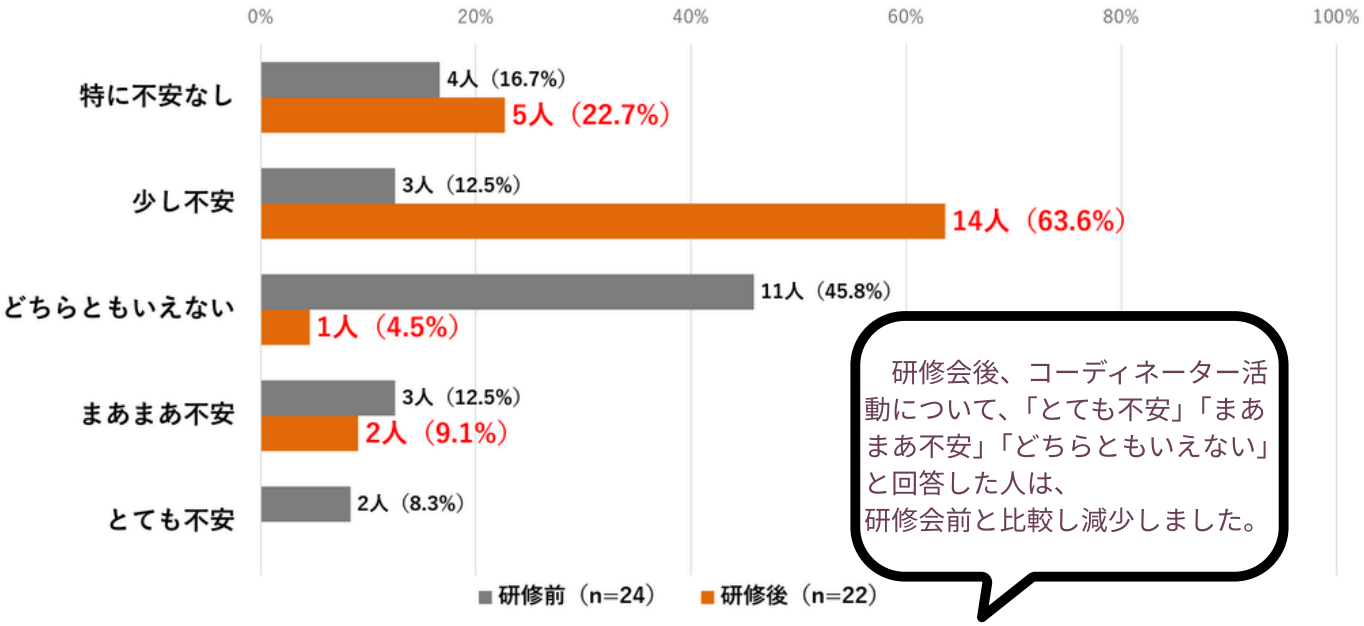


※自由記述で「グループワークの時間を長くしてほしい」との要望あり

参加者の多くが、コーディネーター活動を学ぶために参加され、参加者全員から講演内容について高評価をいただき、高い満足度に繋がりました。

ひろしま肝疾患コーディネーター活動について（22名のアンケート結果）

活動への不安/研修前後比較



研修会後、コーディネーター活動について、「とても不安」「まあまあ不安」「どちらともいえない」と回答した人は、
研修会前と比較し減少しました。

【研修会前】

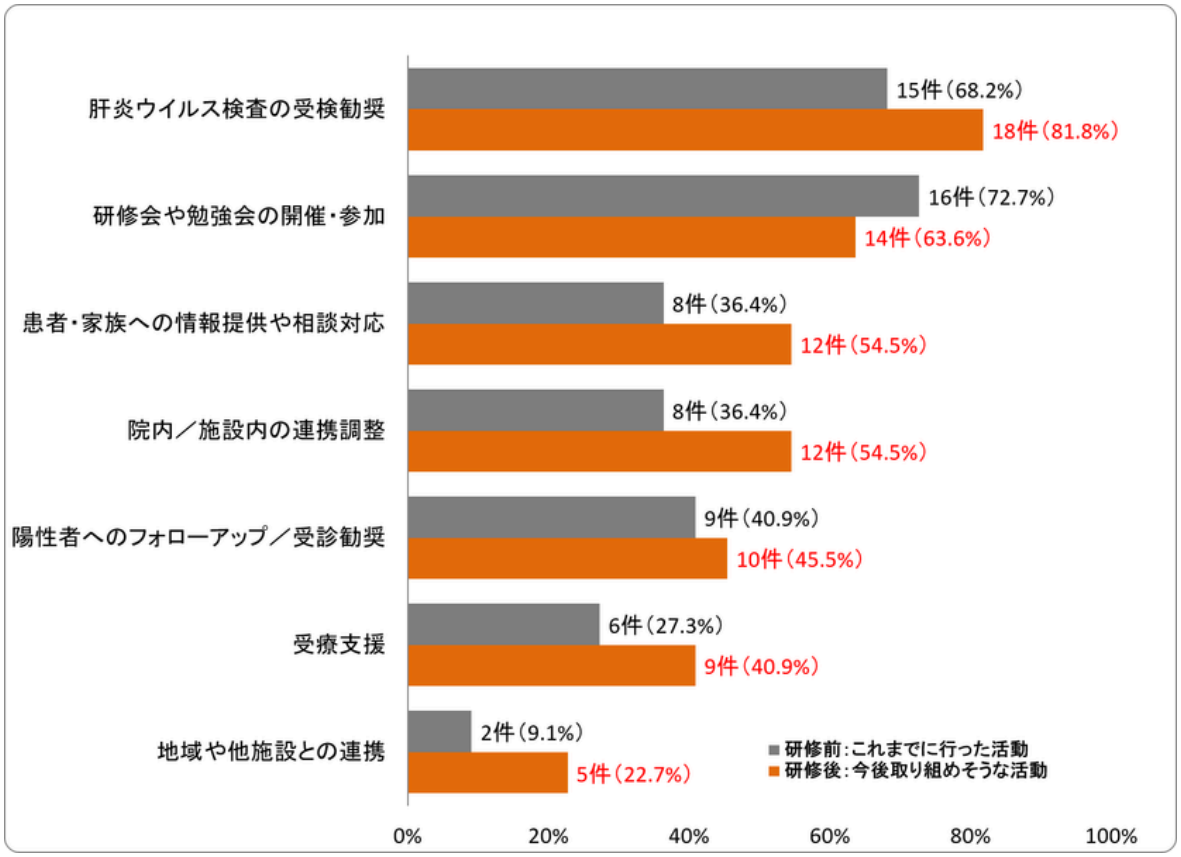
コーディネーター活動の
相談先や繋ぐ先が不明
5名

【研修会後】

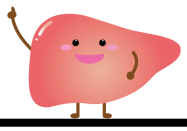
コーディネーター活動の
相談先や繋ぐ先が不明
0名

研修会前に、コーディネーター活動の相談先や繋ぐ相手が不明だった人も、研修会後には、全員がイメージすることができるようになりました。

これまでに行った活動（研修前）と今後取り組めそうな活動（研修後）



これまで行ったコーディネーター活動（研修前アンケート）と比べ、研修後に今後取り組めそうな活動として挙げられた件数は、多くの項目で上回りました。その理由として、講演やグループワークで示された、日常業務の中での関わりや職種の強みを生かした連携が、今後の活動のイメージにつながったと考えられます。一方、「地域や他施設との連携」は、職種や所属機関によっては取り組みにくい活動であることから5件（22.7%）と少数にとどまったと考えられます。



まとめ

本研修は、有資格者の知識と理解を深め、具体的な活動内容や相談先について認識を深める機会になったと考えられます。一方で、参加者からは「何から取り組めばよいかわからず活動に結び付けにくい」「多職種との交流が少ない」「上司や組織の理解を得ることが難しい」といった意見が寄せられ、活動への不安や職種ごとの役割の具体化、院内連携の推進などに関する課題が示唆されました。

今後も研修会内で、職種別の具体的な活動例や成功事例の紹介、症例検討の機会を提供するとともに、参加者の継続的な活動を支援することで、肝疾患コーディネーターの活動推進と患者支援の充実に努めていきます。

第2回肝疾患診療連携拠点病院研修会
3月13日（土） 14：00～16：00
Web開催予定です



アンケートにご協力いただきありがとうございました。

広島大学病院 肝疾患相談室